

編集発行責任者 伊藤 洋

〒125-8506 東京都葛飾区青戸6-41-2

TEL:03-3603-2111 (代表)

URL:<http://www.jikei.ac.jp/hospital/katsushika/>

E-mail:aotokouhou@jikei.ac.jp

INDEX

- 01. 放射線治療再開のご案内
- 02. 新しいパーキンソン症候群検査~ドーパミントランスポーター(DAT SPECT)~
- 03. 採血を受けられる患者さんへ
- 04. お薬手帳を持ちましょう、編集後記



≡ 放射線治療再開のご案内 ≡

●別館1階放射線治療照射室



●別館2階外来化学療法室

地域の皆さまの多くのご要望を頂き、平成28年1月5日より、葛飾医療センターの放射線治療が再開されることとなりました。がんの治療方法は、基本的に「手術療法」「化学(薬物)療法」「放射線療法」の3種類があり、これをがんの三大療法と呼んでいます。放射線治療再開により、全ての治療に対応が可能となりました。

治療にあたっては、2つ以上の治療を組み合わせる(集学的治療)ことも考えられます。同敷地内に別館を建設し、1Fに放射線治療施設を、2Fに化学療法室(18床)を増床、移転配置しました。“どの治療方法がその人のがんにもっとも効果を期待できるか”を考慮しながら治療を行ない、今まで以上にがん治療に積極的に取り組んでまいります。

今回の放射線治療再開に伴い、当院のがん治療における体制がより強固に整いました。都内でも特に高齢化が進み、がんによる死亡率が高い当地域のニーズに対し、より適切に対応しうる病院となることを目指してまいります。

※各診療科の受診をした上で診察予約を受け賜っており、FAX予約等の直接のご予約はご対応しておりませんので、ご了承ください。



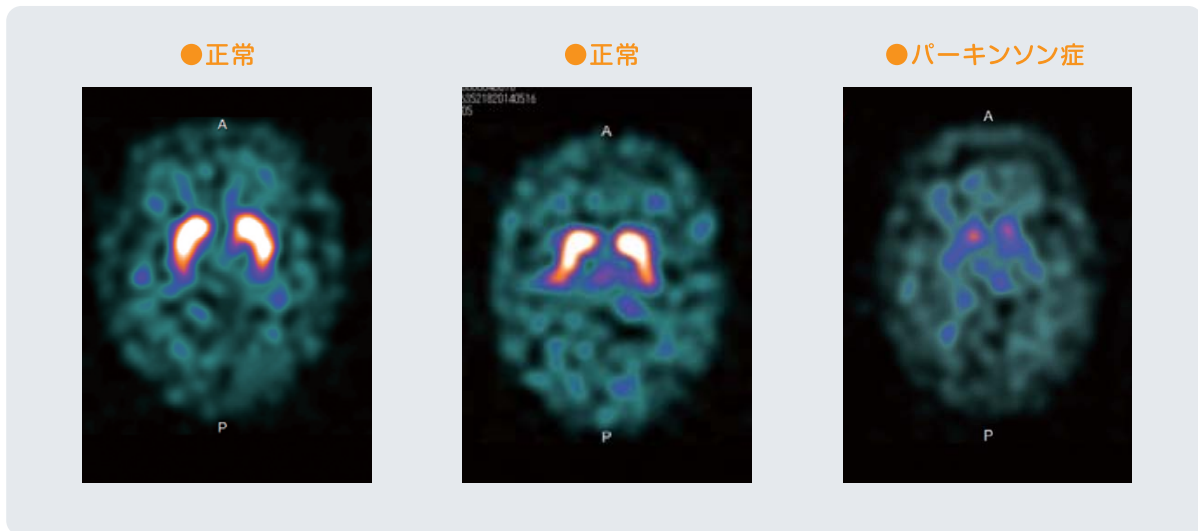
新しいパーキンソン症候群検査 ～ドーパミントランスポーター(DAT SPECT)～

パーキンソン病(PD)に認められる動作緩慢、振るえなどの所見をパーキンソニズム(PKS)と呼びます。PKSはPD以外の神経変性疾患や薬剤、脳血管障害などでも認めることがあるため、その鑑別診断は容易ではありません。

従来は、問診、身体所見、頭部MRI、MIBG心筋シンチグラフィー、脳血流シンチグラフィーなどの検査を総合的に判断して、診断を付けて参りましたが、新たに2014年1月保険収載されたのが、DAT SPECTです。当院でも現在までに300名ほどの患者様に施行しています。

PDなどの神経変性疾患では、黒質線条体ドーパミン神経細胞が変性し、その神経終末に存在するDAT密度が低下します。一方、血管性や薬剤性パーキンソン症候群では正常所見を示します。

(神経内科)



神経内科のご受診は、医療機関からFAXによる予約受診を推奨しております。

●申込書は、当院ホームページからダウンロード、もしくは下記窓口にご連絡ください。

窓口：入退院・医療連携センター 医療連携部門

TEL：03-3603-2111 (内線:5145) / FAX:03-3838-9922

受付時間：午前8時45分～午後7時00分(月～金曜日)

：午前8時45分～午後5時30分(土曜日)

※日曜・祝祭日・大学記念日5月1日・10月15日・12月30日～1月4日を除きます。



採血を受けられる患者さんへ

今回、当院で行っている血液検査について説明します。

採血は、患者さんの病状を把握するために大切な医療行為です。比較的安全性が高い手技とされていますが、ごくまれに採血後も痛みが続いたり、しびれや血腫が生じたりすることがあります。このため、医師は採血によって得られる情報が、採血に伴う危険性よりも重要であると考えた場合に採血の実施を判断します。

採血室では、採血を「安全」「正確」に行うため、以下の点について皆様のご協力をお願いしております。



～採血室の風景～

ご本人確認

患者さんの誤認を防ぐため、ご自身の氏名をおっしゃっていただきます。



採血前の注意

以下に該当する方は、採血の際に対応いたしますのでお申し出ください。

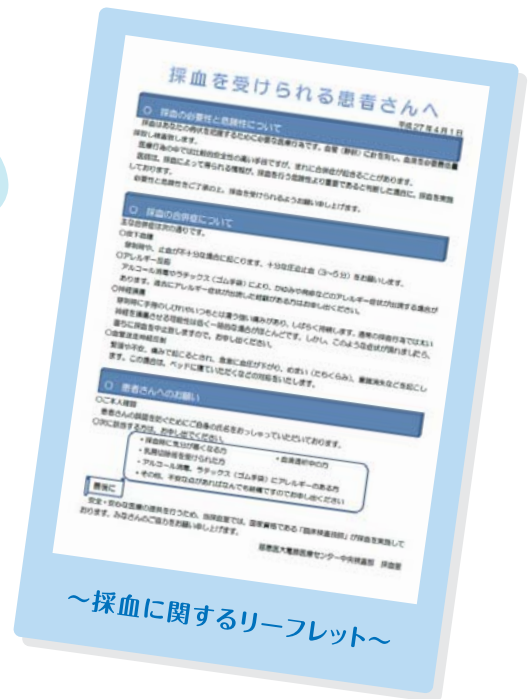
- ・採血時に気分が悪くなりやすい方
- ・アルコール消毒、ラテックス（ゴム手袋）にアレルギーをお持ちの方
- ・血液透析中の方
- ・乳房切除手術を受けられた方
- ・その他、採血に関してご希望やご不安な点がある方

採血後の注意

以下に該当する方は、採血の際に対応いたしますのでお申し出ください。

- ・採血針の穿刺や止血が不十分な場合に、採血の周囲が青くなる場合があります。採血後は右の写真のように、採まずにしっかり圧迫止血（3～5分）をお願いします。
- ・採血後に気分が悪くなったり、めまい（立ちくらみ）を感じた場合は、すぐにスタッフにお声掛けください。

その他、ご不明な点等がございましたら、遠慮なくスタッフにお聞きになってください。なお、中央検査部では、採血を受けられる患者さんに向けたリーフレットを作成しております。2階の採血室で配布しておりますので、ご興味のある方はぜひご覧ください。（中央検査部）



～採血に関するリーフレット～



しっかり
圧迫止血！

お薬手帳を持ちましょう



お薬手帳をお持ちですか？お薬手帳は飲んでいる薬の名前、量、アレルギー・副作用歴などを記録する手帳です。医師や薬剤師などの医療関係者に見せることで、いろいろな場面で役立ちます。

1 医療機関にかかる時は持っていきましょう

現在飲んでいる薬の情報を確認でき、薬の飲み合わせや重複による副作用を防止できます。白い薬、血圧の薬などの情報からでは、正しい情報を得ることはできません。市販薬・サプリメントの情報も記入してください。また、アレルギー・副作用歴より、再発を予防できます。



2 緊急時・災害時に役立ちます

救急受診時、災害時にお薬手帳があれば、飲んでいる薬の情報を正確に伝えられます。東日本大震災時にもお薬手帳が役立った事例が数多く報告されています。

3 1冊にまとめましょう

病院ごとや薬局ごとにお薬手帳を持つと飲んでいる薬の情報がすべてわかりません。複数の医療機関におかかりの場合でも、薬の情報を日付順に1冊にまとめましょう。



お薬手帳を活用することで、お薬による治療を安全に行うことができるだけでなく、みなさんが日頃飲んでいる薬を整理し、理解することにも役立ちます。みなさんが安心してお薬を飲むために、お薬手帳を持ちましょう。

薬剤部



編集後記



新年明けましておめでとうございます。

本年は放射線治療外来が再開され、進化・創造し続ける病院として地域の皆さまのご期待ご要望に応えてまいりたいと存じます。本年も、より一層のご支援を賜りますよう、教職員一同心よりお願い申し上げます。